いきいき健康生活

鴻巣市広報「かがやき」平成23年11月15日号 掲載

アルツハイマー型認知症

皆さん、認知症をご存知ですか。年齢を重ね、物覚えが悪くなった場合は認知症とはいいません。認知症は正常に発達した知能が、何らかの病気によって低下した状態のことです。

代表的な認知症の原因疾患は、アルツハイマー型認知症、血管性認知症（脳梗塞や脳出血後）、レビー小体型認知症などがありますが、その中でもアルツハイマー型認知症が一番多く、全体の50～60%を占めます。これは、脳の神経細胞が通常の老化よりも減ってしまうことで、脳が萎縮していく病気です。

症状としては「進行性のため物忘れを自覚せずに出来事を全部忘れてしまう」「場所・時間・季節等が分からない（見当識障害）」などが挙げられ、一般的な物忘れ（進行がきわめて遅く、自覚症状があり見当識障害も認めない）とは異なります。

認知症を根本的に治す薬はまだありませんが、病気の進行を遅らせる薬は現在4種類あります。認知症の治療方法は、投薬や症状に合わせた対症療法、ケアスタッフなどと連携した介護を行っていきます。

また、認知症の確立している危険因子に加齢とアポリポ蛋白遺伝子がありますが、これらは予防できません。しかし、危険因子としての可能性がある高血圧、糖尿病、肥満、心疾患等は生活習慣の改善や適切な治療によりコントロールできます。さらには、運動や知的活動も認知機能の維持・向上に効果があるとの報告が多く寄せられています。

アルツハイマー型認知症は、治療開始が早いほど効果があると言われており、早期発見・早期対応が重要です。医師会では今後、「もの忘れ相談医」リストを作成する予定です。

もの忘れ相談医は、認知症の疑いがある方や家族からの相談を受け、必要に応じ専門医に紹介します。さらには、治療方針の決定された患者に対して、かかりつけ医として治療を継続し、福祉との連携を図ります。

その他、相談窓口として「地域包括支援センター」がありますのでお気軽に相談されると良いでしょう。